

No.44 灰垣委員

改めてちょっとお聞きしたいんですけども、この施設建設の目的をお聞きします。

それから、先ほとしろあと歴史館、1年間に3万人ほどとおっしゃいました。15年に開設されて、経年そのぐらいの数字なのか。

それと、あそこは無料で入れる部分と有料の部分があるんですけど、この数字を分けて、もし、わかるんなら教えてください。

それと、今、野々上委員からご質問があって、お答えがなかったんじゃないかなということ、他市、他府県等の同じような施設を参考にされたのか。その3点、ちょっとお願いします。

No.45 森田社会教育部参事

ご質問にお答えいたします。

まず、建設の目的であります、これはもう冒頭、部長のほうから申しあげましたように、史跡今城塚古墳の啓発、あるいはその文化財の持ちます郷土の歴史をいかに次の世代、子どもたちに伝えていくか、あるいは市民の方々に高槻の歴史と風土を理解していただくかという部分で、これまで史跡指定以後、今城塚古墳の公有化を果たして、平成9年から発掘調査をし、先ほどの答弁と重なってしまいますけども、10年間の発掘調査の中で、極めて良質な文化財としての情報、具体的に申しますと、古墳を築造する古代の技術というようなものが、全国の大きな古墳で発掘調査が全くままならない中で、今城塚古墳だけがそういう情報発信できると、それは非常に大きな個性であります。その個性が我が高槻の町の中で啓発の展開ができる。これは全国から多くの方々に来ていただける。市民はもちろんでありますけども、全国を対象にした施設にしていきたいというふうな思いから、それに見合う展示施設、あるいは企画展示というふうなもの、それから、るる申し上げております体験学習、それで講堂の規模にいたしましても、しろあと歴史館ではいろいろのスペースの問題から果たせなかった講座室も非常に充実したものになっていくというふうな考えて、建設の目的というふうな形にしていきたいと思いますと考えております。

それから、今、類似の施設のお話もあったかと思いますが、参考といたしまして、近くでは吹田の岸边というところに、岸边のかわらの窯がございまして、史跡でございませう。今城塚古墳と同様の位置づけでございませうが、そこには、吹田市がすぐ横に博物館を建てられまして、遺跡と一体的に運用されておられます。そこの実績なんかを申し上げますと、平成4年に開館しておりますけども、年間大体3万から3万5,000人ぐらいは来ておられると、これまでの利用者累計は20万人ぐらいだということになります。

吹田市の部分につきましては、大阪の難波宮のかわらを焼成して、そこへ供給していたということで、それに特化した部分を中心に枠を広げて、古代の窯業というようなものを展示しておられますので、我が高槻の今城塚のガイダンスにつきましては、今城塚古墳をメインにこの三島地域の特性であります三島古墳群を十分啓発、展開できるということで考えております。

それから、有料と無料でございますが、ガイダンス施設については、これから十分検討してまいりたいと思いますが、先発のしろあと歴史館につきましては、基本的に常設展示は無料で、できるだけ多くの方に気楽に見ていただきたいと。特別展につきましては、借用資料等々、その企画に応じた経費が生じてまいりますので、すべては賄えませんが、受益者負担という観点から、特別展については有料で運営をさせていただいておるということでございます。特に、借り受けなんかの場合は有料も考えていかないといけないと思います。

No.46 灰垣委員

しろあと歴史館の過去の有料での利用者。

No.47 鐘ヶ江文化財課主幹

利用者につきまして、有料、無料、把握しておるかということかと思えます。18年度の実績で申しますと、しろあと歴史館におきまして、18年度は3万943人の方にご利用いただきました。このうち有料入場者、特別展の入場者ということでございますが、約3,000名でございます。

No.48 灰垣委員

目的ということでお聞きしましたけれども、それはちょっと後ほど。しろあと歴史館、この3万943人、有料3,000人、これは当初予定というか、想定していた人数なのか、それとも想定より少ないのか多いのか、お聞きします。

それと、吹田市以外のところは行っていらっしゃるのか。行くなり、調査はしてないのか。もしあれば、そこから得られたものということ、また、そこで得られた課題、そういうことをしっかり受けとめた上でこの建設に臨んでいかなくちやあいけないと思いますので、そういうことがあれば、教えてください。

No.49 森田社会教育部参事

まず、1点目でございます。しろあと歴史館の入場者数、どの程度の想定の中での展開なのかということでございます。しろあと歴史館は月曜日、基本的に休館という形でやっております、年間300日が開館ということで、我々としては1日100人の入館者数を目標に立てて、そうしますと年間3万人になりますので、毎年約3万人をクリアしていけば、一定の啓発効果が高まるだろうというふうに考えてございます。

先ほどちょっと申し上げた吹田市なんかも、年間大体3万人から3万5,000人というふうなことも聞いておりますので、それに見合う部分は啓発できておるのかなと。

それから、吹田市以外の類似というふうなことで少し調べたものがございます。奈良の馬見丘陵公園館というのがございまして、流山古墳でありますとか乙女山古墳とかいう大きな古墳が群集しておる部分がありまして、我が三島古墳群と非常に近い状態でありますけども、そういったところも、資料館というか古墳の啓発する部分の建物がございます。平成3年にオープンしております、18年度実績で約7万人の方が来ておられるということでございます。

ただし、ここは奈良県立というふうなことで、規模は我々が今想定しておるものよりはかなり大きい、60ヘクタールの大きな公園の中で施設があるというふうなことでございまして、少しちょっと市町村立と県立ということで違うかなと。

今城塚古墳の似たコンセプトといたしましては、長野県の森將軍塚古墳、更埴市にございますけども、ここも整備が行われまして、そのすぐ横に古墳館、あるいは長野県立歴史館というふうなことが設けられております。これは県と市の2つの施設が合わさっております、市のほうにつきましては、年間3万人を確保しておられる。県のほうは非常に大きな建物で、これは將軍古墳に特定する長野県全体が入っておりますから、年間11万人ぐらいが現在来ておられると。いずれも300日の開館ということになっておりますので、今ご紹介申し上げたような3万人、あるいは3万5,000人というふうな流れの中で、我々としては先ほど申し上げました5万人以上は目指すようなことで、高槻の文化財が全国に発信できればと考えてございます。よろしくお願い申し上げます。

文化財は、一つ一つ同じ古墳と申し上げましても、それぞれ地域の特性を大きく取り込んだものでございますので、単純に——例えばプールとか体育館であればどこに建てても、一定の基準があれば公認の施設だということがあるんですが、文化財施設につきましては、あくまでそのあんこは文化財でございますので、文化財はその地域の中の時代背景や社会背景や特性を凝縮したものでございますので、そういったことに特化して、その大いなるを発信する資料館がみんな成功しておるというふうに我々は受けとめておりますので、今、ご紹介させていただいた部分につきましても、我々は視察もさせていただいて、いい状況の中で啓発ができていかなあということ、我が今城塚古墳につきましても、それ、あるいはそれ以上のことをやっていきたいというふうに考えてございます。

No.52 灰垣委員

今城塚というと、宮内庁から陵墓とか参考地という形では指定されていないから、先ほど説明あったように、ある意味では自由に入れるという、発掘もできるという、全国でも唯一じゃないかと言われてるような古墳ですから、そういうのをしっかり生かしていかなくちやあいけないと思うんですけれども。森將軍塚は視察で我々も行かせていただきました。参事がおっしゃる構想みたいなを含めて、そういうことも持っていらっしゃるんだろうと思いますけれど、お2人の意見もあったように、やはりマニアの方はマニアで深く深くそこに行けば知識が得られるというか、参考になるということも大事ですけれども、広く歴史を知る、そういう全国的にも唯一そういうところなんだというような目的が達せれる施設にしてほしいということなんです。

これはちょっと余談にもなりますけど、私はホストファミリーということをさせてもらって、海外から今までに、15か国ぐらいから来て、うちに泊まってということをやっているんですけど、それ連れていくんです。例えば、埴輪公園であったり、三輪山とか城跡公園とか、そういうところへ連れて行って、ただ、やはりまだ、何というんですか、海外の人がどういう印象を受けるかということにはわかりませんが、やはり、高槻市ということもそうですが、日本の歴史みたいなものがそこで学べるような、そういったことをお願いしておきたいなと思ってます。

今、冒頭に市長も、夢と誇りと愛着のあるというようなことをおっしゃってました。夢で終わってほしくないというふうに思っているんですけれども、近隣の住民の方にもしっかりと配慮しながら、建設等も進めていっていただきたいということを申し上げます。

以上でございます。